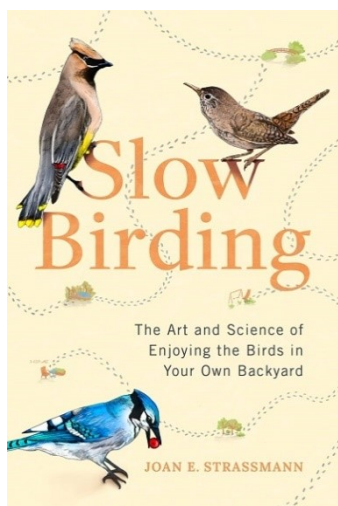


スロー・バーディングの勧め

昨年 10 月にアメリカで『Slow Birding』という本（下）が出版されました。著者は進化生物学者のジョアン・ストラスマン。ファストフードに対抗して 1987 年にイタリアで始まった、スローフードにヒントを得た考え方です。簡単に言うと、多くの種類や珍しい鳥を求めて遠い場所へ出かけるのではなく、身近な場所で身近な鳥をじっくり観察し、その行動の意味や生態を理解しようという提案です。



本誌 231 号の記事「コロナで変容した鳥の生態とバードウォッチング」や 232 号の記事「パンデミックで BW ブーム？」でご紹介したように、欧米ではコロナによって自宅の庭で野鳥観察する人が増えましたが、そうした動向を受けて「ゆっくり探鳥しよう」と提案しているのです。

著者は、eBird のようなアプリや SNS のようなメディアはバードウォッチャーの世界で競争をあおっていると指摘します。eBird のリストのほぼすべて（93%）を 18%未満のユーザーが投稿しており、その動機は上位 100 のランキングに入ることにあるという報告を紹介した後、「成績重視の野鳥観察は、観察者にとっても eBird データを利用する研究者にとっても不幸なことです。彼らは、採餌行動や集団の性比、雛の世話に費やした時間など、鳥の生活の重要な側面の記録を無視することが多いからです」と述べています。

具体的な Slow Birding の方法として、アメリカでは普通に見られるショウジョウコウカンチョウを例にして、オスとメスが一緒に餌台に近づくかどうか、あるいはオスがメスに餌を渡すかどうかなどを観察することを勧めています。

この著者とは別に、米国には Slow Birding を指導するインストラクターもいます。オンラインやワークショップ、グループセッションを通じて具体的な方法を教えています。ちなみに、5 週間のオンラインコースは 125 ドル。ある受講者は次のように述べています。「私の鳥の見方や楽しみ方を変えてくれました。個々の鳥に深く焦点を当て、

状況の中で展開する鳥の生活を観察し、聞き、時間をかけて群落内の他の鳥との関係を理解しました。これは、ライフリストベースの観察スタイルとは大きく異なります」。



What is Slow Birding ?

Slow Birding と同じ考え方を Mindful Birding という言葉で提唱しているのは、障害者のバードウォッチングを普及する Birdability という団体。障害者は健常者のようなスピーディな移動ができないので、1 カ所に留まってじっくり鳥を観察しようという提案です。同団体のサイトには次のように書いてあります。「マインドフル・バーディングは、周囲の鳥や自然と深く関わり、楽しむことを目的として、静かに、意図的に、穏やかにバードウォッチングを行うことです。アクセシビリティ（アクセス能力）の問題を抱えている多くの障害者にとって、これは野鳥を観察する最良の方法です」。

そして、具体例としていくつかの方法を挙げています。①座る場所を見つけて、20 分以上静かに座って訪れるものを観察する。「毎日、毎週、毎月その場所で観察すれば数の変化や季節の変化が分かります」。②フィールドノートをつける。「周囲の環境の詳細な断片を探して書き留めることで観察スキルが向上します」。

ライフリストを増やすために、探鳥地を急ぎ足で移動しながら、1 種確認したらすぐに次の種類を



探すという Fast Birding ではなく、じっくり声を聴いたり、動きを観察する…、ときにはそんな Slow Birding を楽しみたいものです。